

暖房機器を使ったり、照明の使用時間が長くなったりして、家庭の消費電力が増える冬。厳しい寒さがつづくくと、電気の節約もままならないものです。家計のためにも、いまの季節にこそ取り組みたい節電対策をご紹介しましょう。

OFF ON
待機時消費電力って、なに？

家電製品のプラグをコンセントに差し込んだまま、使っていない状態を「待機時」と言います。テレビやオーディオなどは、スイッチをオフにしても表示部のタイマーが点灯していたり、リモコンからの操作信号を待ち受ける機能が作動しています。待機時に、こうした機能を維持するために消費する電力が、「待機時消費電力」です。

一般財団法人 省エネルギーセンターが平成24年度におこなった調査によると、家庭で使われる電力のうち年間5.1%を占めるのが、この待機時消費電力。各家電メーカーの技術開発が進み、待機時消費電力の少ない製品が増えているとはいえ、まだひと月あたり1家庭平均で数百円相当の電力がこれで消費されています。

OFF ON
こまめにプラグを抜きましょう。

長期間使わないものや、常時通電しておかなくても問題がないものについては、プラグを抜いて電力のムダな消費をカットしましょう。たとえば、洗濯機などの機器について、使わないときにプラグを抜くようにするだけで、待機時消費電力量を約50%も削減できます(※1)。



節電対策、この工夫が効果的！



OFF ON
節電タップで、かしく節約。

いちいちプラグを抜き差しするのは、面倒なものです。そこでおすすめなのが、節電用のスイッチが付いた「節電タップ」。日常よく使っていて、使っている時とそうでない時の切り替えが多く、待機時の消費電力が多い家電製品のプラグは、この節電タップにつなぐとよいでしょう。パソコンのネットワーク関連機器などが向いているかもしれません。

ただし、機器の作動などで問題が生じないかを十分確認したうえで、おこなうようにしてください。

OFF ON
主電源オフでも、こんなに違います。

先述したように、新たに登場する家電製品の性能向上により、待機時消費電力も少なくなってきました。新しい家電製品については、プラグはコンセントに差し込んだままでも、使用する時だけ主電源をオンにし、使わない時は主電源をオフにするというルールを家族が守るだけで、待機時消費電力量を約20%削減する効果が得られます(※1)。

OFF ON
照明器具の使い方にも気をつけよう。

冬は照明器具を使う時間が長くなるので、そこで消費される電力の割合が高くなります。こまめに消したり、節電型の照明に切り替えたりするほかに、電球や蛍光灯の数を減らすやり方も効果的です。家庭で一般的な環形蛍光灯は、リング状の蛍光管を2本装着できますが、それを1本だけにしてみる、などの方法です。

また、節電効果だけでなく、長寿命によるコスト削減も期待できるLED照明を導入することも検討してみたいかがでしょうか。

※1 一般財団法人 省エネルギーセンター「平成24年度エネルギー使用合理化促進基盤整備事業待機時消費電力調査報告書」より